



与那原町史だより

与那原の自然と人



与那原町史編集事業の一年

2020年度はコロナ禍の元、『与那原町史 図説編 与那原 自然と人』編集事業も大きな影響を受けました。しかし、そのような状況下でも、感染予防（検温、換気、手指消毒、マスク着用）を徹底し、野外調査や聞き取り調査の実施、企画展の開催を行ってきました。その内容について、一部ご報告します。

聞き取り調査

2020年4月7日に発出された緊急事態宣言に伴い、4～5月は聞き取り調査を中断しました。5月25日の緊急事態宣言解除後は、6月から聞き取り調査を再開し、新島区、大見武区（追加調査）、与原区、当添区、中島区、港区の調査を終了することができました。

各区の区長さんをはじめ、このような状況下でも聞き取り調査にご協力いただきました皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



与原区での聞き取り調査



運玉森での夜間調査

野外調査

今年度は、初めて夜間野外調査を実施しました。日没から午後9時頃の間、運玉森や雨乞毛周辺を調査したところ、夜間に活動する昆虫の姿を撮影することができました。また、姿をとらえることはできませんでしたが、運玉森ではリュウキュウアオバズクの鳴き声を観測しています。



企画展会場風景

企画展

例年6月開催の平和企画展は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、展示内容の一部を広報誌上で紹介しました。

また、去る12月11日～14日、町コミュニティセンター3階にて企画展「与那原の自然と人」を開催しました。

町内で撮影されたいきものの写真を中心に、与那原の自然環境や聞き取り調査の様子、動植物の利用方法を展示しました。また、12日・13日にはワークショップ「ススキの箒作り体験」を開催しました。町内外から12名の方が参加され、個性豊かなススキの箒を作り上げました。



ワークショップ

「与那原の自然と人」バックナンバー

与那原町史編纂係では、2020年度は12回にわたって、広報よなばるに自然編に関するコラムを掲載してきました。調査で得た情報を町民の皆様にお伝えする大切な機会です。このページでは全23回の中から2つのコラムをピックアップして再掲載しています。

2020

4月
シーミー時期の
生物と危険生物

5月
ツバメ

6月
シンダマ

7月
バード
ウォッチング

8月
セミ

9月
ツルグミ

10月
食べられる
植物

11月
ススキの箒

12月
井戸と若水

2021

1月
新春バード
ウォッチング

2月
企画展報告

3月
スズメと
カワセミ

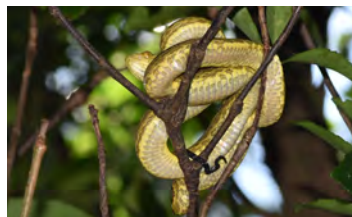
シーミー時期に見られる生き物と危険生物 (4月号掲載)

今年の4月4日は二十四節季の清明です。ウチナーグチではシーミーと呼ばれます。この日お墓の前で門中一同、祖先に手を合わせた後、ごちそうを食べて楽しく語らうという人も多いのではないのでしょうか。

シーミー前のお墓のお掃除は、様々な生き物を観察する絶好の機会です。草の上を走るアオカナヘビなどは、市街地ではなかなか見ることができません。

一方で、あまり出会いたくない生き物と鉢合わせてしまうこともあります。藪の中にはハブやスズメバチの仲間が、頭上にはアシナガバチの仲間の巣もあるかもしれません。これらの生き物に出会ってしまったときは、驚かせないように静かにその場を離れてください。人の気配に気が付くと逃げていく生き物が大多数です。触れたり近づかなければ多くの生き物は無害です。

また、お掃除のときは長袖・軍手・帽子・首にタオルを巻いて体を保護することも重要です。



ハブ



クヌギカレハ



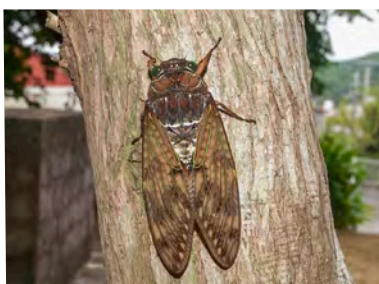
セグロアシナガバチの巣

夏の風物詩 セミ (8月号掲載)

日差しが強くなるにつれ、さまざまな生物が勢いを増してきます。広報がお手元に届く8月には、夏の風物詩であるセミも連日賑やかに鳴き交わしていることでしょう。

4月末から小型のイワサキクサゼミやクロイワニイニイの、6月頃から出現する大型のリュウキュウアブラゼミ(なーびかちかちー)、クマゼミ(さんさなー)などの泣き声を与那原町域でも聞くことができます。そして秋に向けて、クロイワツクツクなど終盤を彩るセミが鳴き始めます。

これらの中でも特にクロイワツクツクは、ずいぶんと数を減らしてしまっているようです。もし鳴き声を聞いた、あるいは目撃したという情報がございましたら、町史までご一報お願いします。



アブラゼミ



クマゼミ



クロイワニイニイ

与那原の動物

これまでに町域で確認された中から選んだ、普段目にする機会の少ないやや珍しい動物たちです。あわせて、磯の生き物の食材利用についてもご紹介します。



オキナワヤマタカマイマイ



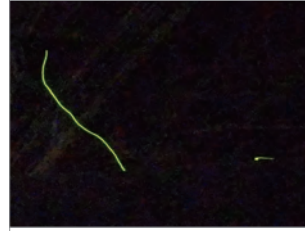
アオミオカタニシ



オキナワヒラタクワガタ



オキナワスジボタル
【じんじん／じんじなー】



オキナワスジボタル
(発光飛翔)



オキナワチョウトンボ



ムラサキオカヤドカリ
【あーまん】



ミナミテナガエビ
【たなげー／たながー】



オオウナギ
【んなじ】



オキナワアオガエル
【うわーた】



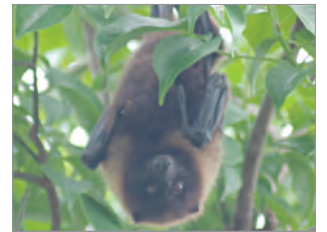
オキナワキノボリトカゲ
【あたく／あたかー】



アオカナヘビ
【そーじまやー】



オキナワトカゲ
【あんだくえーぼーじゃー】



オリオオコウモリ
【こーもり】



リュウキュウサンコウチョウ



キビタキ



リュウキュウコゲラ



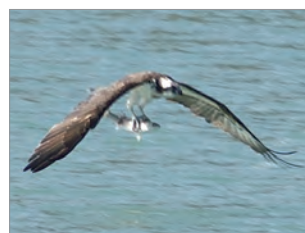
リュウキュウアカショウビン
【くかる】



オキナワシジュウカラ



リュウキュウズアカアオバト
【おーぼーとー】



ミサゴ
(捕らえているのはボラ)



アオサギ
【サギ類・さーじゃー】



ゴイサギ
【ゆーがらさー】



ササゴイ



カワセミ
【かーらんじゃー】



バン
【くみる／くみらー】



オオバン



コガモ



カワウ



コアジサシ



ハクセンシオマネキ
【かたちまー】



ハナマルユキダカラ
【うしもーもー】



イソバナの仲間



シャコガイの仲間
【あじけー】

唐揚げ

最近では追込み漁の衰退でスズメダイ類（ひち／ひちぐあ）を店頭で見かけることは殆どありませんが、与那原海岸で良く釣れる、釣れてしまうクロスズメダイ（くるびらー）は、塩煮（まーすにー）や唐揚げに人気の食材です。

唐揚げは鱗と内臓を取ってそのまま素揚げにし塩をふるだけの簡単調理ですが、頭から尻尾まで骨ごとばりばり食べられます。



与那原の岩礁海岸



クロスズメダイ
【くるびらー】



くるびらーの唐揚げ

がに汁

イカの切身や小魚を棒の先に付け、それを餌にカニを岩陰からおびき出します。カニが出てきたら、もう一方の棒のヒッシミヤー（輪にした草の葉など）をハサミにかけ、捕まえます。与那原では主にミナミベニツケガニ（がさみ／わたりがに）が食用とされます。

カニを殻ごと切って洗い熱湯へ、味噌や醤油で味付けし湯がいたヨモギの葉など添えてがに汁の出来上がりです。



カニ捕りの様子



ミナミベニツケガニ
【がさみ／わたりがに】



がに汁

与那原の植物

海岸から市街地、農地、緑地と町内には様々な環境が点在しています。多様な環境で育つ植物と、聞き取り調査で得た人々との関わりをいくつかご紹介いたします。



ツルグミ
【くーび】



ミツバハマゴウ
【ほーがーぎー】



ヤマモモ
【やまむむ / きーむむ】



ナワシロイチゴ
【いちび / たかいちばー】



ジュズダマ
【ししだま】



シマグワ
【くわーぎ】



ナンバンギセル



ムラサキカタバミ
【やふあた】



オオハマボウ
【ゆーな】



ブッソウゲ
【あかばなー】



アダン
【あだにー / あだんばー】



ヒジキ
【むー】



ススキ
【ぐしチャー / げーん】



ソテツ
【すーていーチャー】



ヨモギ
【ふーちばー】



オオバコ
【ひらふあぐさ / めーぬふあー】



ハルノノゲシ
【まーおーふあー】



スベリヒユ
【にんぶとうかー】



ネンジュモの仲間
【もーあーさ】



ツワブキ
【ちーぱっばー】



ゲットウ
【さんにな】



メドハギ
【そーろーはーじ / そーろーめーし】

生活用具を作る

聞き取り調査中、多くの利用方法を聞くのがススキについてです。ススキはカマドの焚き付けや建材としても使われていましたが、一番身近な使い道は箒の材料ではないでしょうか。聞き取りによると、小学校の宿題でススキの箒の提出があったそうです。記憶に残っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

ススキの箒は主に屋内の掃除に使われました。一方、土間である台所の掃除にはソテツの箒を用いたそうです。ソテツの葉を3～4枚重ね、ゲットウの茎などで束ねます。身近な材料とわずかな時間で作ったソテツの箒は、くたびれるまで使った後カマドにくべて燃料にもなりました。捨てるのではなく、無駄なく使ったのですね。

食べられる植物

箒などの生活用品としての利用以外にも、植物は様々な形で町民の生活と結びついていました。とくに聞き取り調査で思い出深く語られるのが、戦中戦後の食生活です。ヨモギ、オオバコ、ハルノノゲシなどはジューシー（雑炊）の具になりました。ぬめりと酸味が特徴的なスベリヒユはゆでて酢味噌和えとして供されたようです。また、イリチー（炒め煮）などにして食べていたネンジュモは非常時に備えて防空壕に貯蔵していたという話もあります。ツワブキは一部の地域で湯がいて食されたようです。

これらの植物はヨモギのように現在も私たちの食卓にのぼることがあります。古くから親しまれてきた植物は、現在の生活にも結び付いているようです。

行事と植物

植物は普段の生活ではなく、一年の特別な日にも活躍しました。旧暦12月8日のムーチーではゲットウの葉を用いてカーサムーチーを作ります。現在は餅を包んだ葉を縛るのに市販の紐を使いますが、かつてはゲットウの茎で結わえていました。

メドハギも旧盆には欠かせない植物です。旧暦7月13日のウンケーの日、メドハギは水を張ったタライと共に玄関に置きます。これを用いて、グソーからやって来たご先祖様が足を洗うと伝えられています。また短く切りそろえた枝はソーローメーシと呼ばれ、ご先祖様の箸となります。かつては自生するメドハギを各家庭で刈り取っていたようですが、現在は野でメドハギを見つけることも難しくなっています。



ススキの箒



ソテツの箒



ハルノノゲシの
ジューシー



スベリヒユの
酢味噌和え



ムーチー



スーパーで販売
されているメドハギ

野外調査及び利用再現実施中

与那原町史では2018年度より、町内の自然環境を記録するための野外調査を行っています。同時に聞き取り情報を基に、町内で採取した動植物の食材利用や日用品作成の再現なども行っています。2021年度までに町内全域をくまなく巡回する予定です。よろしくお願い致します。



既刊資料のご案内

町史既刊資料は、町立図書館で閲覧できます。また、コミュニティーセンター2階の町史編纂係では、平日の8:30～17:15の業務時間内に販売も行っております。ご利用ください

| | | |
|-----------------------|---------|-------------------|
| 与那原町史 序説・むかしよなばる | 昭和63年3月 | 2,000円 |
| よなばるの民話 | 平成2年3月 | 1,000円 |
| 与那原の学童集団疎開 第1部一体験集 | 平成7年8月 | 1,500円 |
| 与那原の学童集団疎開 第2部一資料編 | 平成10年3月 | 2,000円 |
| 沖縄演劇の巨星・伊良波尹吉物語 奥山の牡丹 | 平成12年3月 | 1,890円 |
| 与那原町史 資料編1 移民 | 平成18年6月 | 1,500円 |
| 与那原町史 戦時記録編 与那原の沖縄戦 | 平成23年3月 | 町内2,500円 町外3,000円 |
| 与那原町史 資料編 戦後の与那原 | 平成28年3月 | 2,000円 |
| 与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ | 平成31年4月 | 1,000円 |

情報募集

町内でシュロ（する）、ダイジョ（やまん）の生えている場所、ミフウズラ（うじら）、フクロウの仲間、小型のコウモリが見られる（見られた）場所に関連して見たことがある、心当たりがある方は気軽に町史編纂係までお知らせ下さい。

また、かつて町内で撮影された牛、馬、豚、ヤギ、アヒル、在来ニワトリの写真をお持ちの方は町史までご提供いただきたく存じます。写真はスキャン後に御返却致します。

与那原町史だより第11号令和3年3月1日発行

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係
〒901-1303
沖縄県島尻郡与那原町字与那原 712 番地
与那原町コミュニティーセンター 2階
TEL: 098-871-9981 FAX: 098-835-8617